

さくら湖管理ニュース

No.74
1月
2008年
発行
国土交通省 東北地方整備局
三春ダム管理所

所長 年頭のあいさつ

皆さん 新年あけましておめでとうございます。
本年も よろしく お願い致します。

国土交通省 東北地方整備局
三春ダム管理所 所長 矢沢 賢一



昨年の洪水期を振り返りますと、三春ダムは、平成10年の管理開始以来、最も頻繁に洪水警戒体制を執った年となりました。体制等設置の頻度は、増加する傾向には有りましたが、改めて、最近の不安定な気象状況を認識しました。幸い、洪水調節の実施までに至ったものは、2回で例年なみでしたが、特に9月7日の洪水は、200m³/sを超える最大流入量となり、規模的に、平成14年の洪水に匹敵する大出水となり、昼夜を徹しての対応となりました。阿武隈川本川は、氾濫注意水位(警戒水位)を若干超えた程度の出水にとどまりましたが、背景には、三春ダムの洪水調節が貢献していたことも知っていただきたいと思えます。このように、三春ダムの洪水調節の実施は、ダム下流河川水位の上昇を軽減して、阿武隈川等本川へ流入する河川の水位上昇を抑制することで、内水氾らん防止や被害軽減に貢献しております。

さて、最近、地球温暖化に起因する気象変動が大きな話題になっています。地球温暖化に起因する気象変動は、その予想される影響の大きさと深刻さから見て、人類の生存基盤そのものに影響を与える重要な課題であるとされています。特に、沿岸域や低平地等においては、海面水位の上昇、大雨の頻度増加、強い台風の増加等による水害、土砂災害、高潮災害などの頻発や激甚化などの懸念が指摘されています。これか

らは、地球温暖化の影響がより顕著に現れ、集中的・局所的な大雨や大渇水などの発生が慢性的に頻繁に出ることが予想されます。ますますダムに対する期待が高まるものと思えます。

三春ダムは、10年間の管理実績を踏まえ、さらなる管理の高度化等を図りながら、「安全と安心」を享受できる環境を守っていただけるようダム管理に取り組んでまいります。「備えあれば憂い無し」。本年も皆様のご理解とご支援の程よろしく申し上げます。

また、三春ダムの機能(洪水被害の軽減、都市、農業用水の開発、河川環境の保持等)を維持発揮させていくためには、水源地域となるダム上流域が健康で元気な状態であることが必要です。このため、三春ダム水源地域の持続的発展に寄与する事を目的とした関係者の行動計画をまとめた「さくら湖水源地域ビジョン」を平成19年2月に策定させており、今後は、このビジョンに示された内容を地道に実践して行くことが求められます。三春ダムでは、「地域に開かれたダム」としての地域振興を見据えながら、活動する上で中核となる組織の立ち上げや具体的な諸活動に対して、支援して参ります。関係各位の皆様の積極的な参加と行動の実践をお願いします。



久保田局長 来所



12月21日、久保田新局長が来所され、着任のご挨拶をいただきました。

「東北地方は、非常に豊かな自然、素晴らしい伝統と文化が残っています。安全で安心して暮らせる地域づくり、そして「強く美しい東北」を目指して、地域の皆さんと一緒に取り組み、地域の「熱い思い」に応えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。」（ご挨拶より要約）

東北ダム技術検討会開催

12月12・13日の2日間、東北地方整備局に勤務する若手技術員の技術力向上および円滑かつ効率的な事業執行を図る目的で「第2回 東北ダム技術検討会」が開催されました。

今回約40名の方が三春ダムを訪れ、三春ダムの概要等の説明や現地視察を行いました。



三春ダムからのお知らせ

～ 周辺整備工事 本施工の終了について ～

三春ダムの水質及び周辺整備を目的に行っていた「三春ダム周辺整備工事」の施工が、ほぼ終了しました。工事内容は、柴原地区の「本川前ダム浚渫」及び「他工事への土砂運搬」、西方地区の「盛土」、中郷地区の「貯水池護岸補修」です。



浚渫前



浚渫後

（写真は、柴原地区「本川前ダム浚渫工事」の現場です。約20,000m³の土砂を浚渫し、浚渫前と比べ浚渫後の河道が広く深くなっています。）

工事期間中は、工事車両が一般道を走行していた事から、皆様の交通にも大変ご不便をおかけしましたが、ご理解・ご協力を頂き、施工することができました。

今後も工事の片付け等で、工事車両の通行がございます。重ねてご協力をお願い致します。



さくらの公園の四季

梅・桃・桜が同時に咲くことから町名が付いた三春町。三春町といえば滝桜ということで春はたくさんの観光客で賑わいますが、四季折々に変化するさくら湖の自然を直接肌で感じながら、さくらの公園を散策してみませんか。

●春



さくら湖全景
(展望広場より)
若葉のまぶしい季節です



4月中旬から5月末日まで、さくらの公園はあわいピンク色に山全体を染めます。ソメイヨシノは4月中旬から下旬、八重桜は、5月中旬頃が見頃です。



●夏



貯水池周辺の緑もより一層深みを増していきます。



6月中旬、ニッコウキスゲが貯水池を見守るように咲き競います。夏休み入るとカブトムシやクワガタ・セミを探して子供たちの賑やかな声が響きます。



●秋



11月、紅葉に彩られた山々にさくら湖は囲まれます。



実りの秋。栗やドングリの実を拾ったり、お弁当広げてちょっとしたピクニック。落ち葉の上を歩く足音も心地よく感じます。さくらの公園は、春だけではなく秋もたくさん楽しめます。

●冬



寒い朝、さくら湖は薄く結氷します。薄氷の上に雪が舞い落ち水墨画のような景色に変わります。



12月、冷たい風が吹く中、ひっそりと四季さくらが咲いています。白鳥も羽を休めにさくら湖に立ち寄ることもあります。どちらも見落としてしまいがちなので、温かい服装でゆっくり散策してみてください。



平成19年度 阿武隈川上流児童図画コンクール 表彰式 開催

平成19年度「阿武隈川上流児童図画コンクール」の表彰式が、昨年12月27日（木）福島市のウェディングエルティで開催されました。

今回17回目を迎えたこのコンクールは、平成2年より水対協阿武隈川上流支部が福島県内の阿武隈川流域24市町村の小学生を対象に実施しているもので、「川に関する」児童図画の募集を通して、次世代を担う子供たちに川に対する思いを深めていただくとともに、その作品を広報に活用することによって、流域住民の方々に対し、河川愛護意識等の普及と「阿武隈川水系水質汚濁対策連絡協議会」が実施する事業について、理解を得ることを目的としています。

今回は、21市町村159校の小学校から、図画部門1,095作品・ポスター部門1,445作品の合計2,540作品のたくさんの応募がありました。その中から審査の結果、図画部門28作品・ポスター部門27作品の合計55作品の入賞作品が選ばれ、特別賞として下記の2名の方に三春ダム管理所長賞が贈られました。

平成19年度「阿武隈川上流児童図画コンクール」 特別賞 三春ダム管理所長賞



●図画部門

田村市立堀越小学校
1年 吉田 涼くん



●ポスター部門

三春町立沢石小学校
2年 田村 雅弥くん



1 2 月 の 見 学

- ・12月 3日 福島県ほ場整備事務所
- ・12月 6日 郡山市立二瀬地域公民館
- ・12月12日 東北ダム技術検討会



東北ダム技術検討会 現場見学の様子

編集後記

明けましておめでとうございます。三春の元旦行事と言えば何といても「西方水掛祭」です。西方地区の長男（学生を終了した年から満33歳まで）の若連たちが無病息災・五穀豊穡・子孫繁栄を願い、三春ダム直下の大滝根川で体を清め、田んぼの水（泥？）を掛け合うみそぎの行事です。今年も、大晦日に降った雪が田んぼを白く染め、時折小雪がちらつく中行われました。迫力ある水掛祭を一度機会がありましたら、ご覧になってはいかがでしょうか。（石井）

俳句ポスト作品紹介

冬晴れの
さくら湖の
面ど

粉雪が
咲いこのれゆく
湖面かな

冬休の
ゆっくりながゆる
三春ダム



編集・発行

国土交通省
東北地方整備局
三春ダム管理所

皆様のご意見や情報の提供を
お待ちしております。

〒963-7722

福島県田村郡三春町大字西方字中ノ内403-4

Tel 0247-62-3145 / Fax 0247-62-3170

ホームページアドレス

<http://www.thr.mlit.go.jp/miharu/>